

矢島小児童、牛と触れ合う **搾乳体験 迫力に驚き**

県牛乳普及協会の出前授業「わくわくモーモースクール」が、由利本荘市の矢島小学校で開かれた。3、4年生約40人が牛との触れ合いやバター作り体験を通して、酪農への理解を深めた。

新林牧場(同市西目町)代表理事の柴田睦さん(48)らが雌のホルスタイン(5歳)と生後2カ月の子牛を連れて来校。児童は牛の鳴き声や間近で見る迫力に驚いていた。

搾乳体験では柴田さんに教わりながら、牛の横にしゃがんで慎重に牛乳を搾り出した。その後は聴診器で子牛の心臓の音を聞いたり、ミルクをあげたりして、触れ合いを楽しんだ。児童は「かわいい」「温かい」と話し、目を輝かせていた。

バター作りは県牛乳普及協会の職員が講師を務めた。児童は容器に入った乳脂肪分47.0%のクリームを力強く振った後、割り箸でかき混ぜてバターに仕上げた。完成したバターはクラッカーに付けて味わった。

3年の佐藤理心さんは「牛乳が好きなので、実際に搾ることができて楽しかった。バター作りもおいしくできた」と笑顔で振り返った。

スクールは酪農への関心を持ってもらおうと県内の小学校で毎年開催。今回は5日に開いた。(川村優衣) (令和8年10月11日(日) 秋田魁新聞より一部抜粋)